

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	広域幹線道路等整備促進事業			事業番号	34-102
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	都市部国県事業推進担当	倉橋 武雄	国県事業対策課	中野 博文	

計 画 (Plan)					
総合計画体系	都市力	まちづくり目標	4	住み続けたい快適で魅力あるまち	
		基本政策	9	快適で暮らしやすいまちづくり	
		施策展開の方向	16	便利で機能的なまちをつくる	
		施策	34	都市の機能を高める基盤施設の整備	
予算事業名	広域幹線道路推進事務費 広域幹線道路地域支援事務費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務    (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成30年度以前	～	終了年度	—
関連法令等	国土開発幹線自動車道建設法、道路法、高速自動車国道法、道路整備緊急措置法、道路整備特別措置法、都市計画法				
国・県の計画等				計画期間	
関連個別計画				計画期間	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	新東名高速道路、国道246号バイパス、都市計画道路西富岡石倉線は、本市の都市機能の向上に重要な路線であることから、引き続き国、県、中日本高速道路(株)と連携し整備の促進を図ることが重要です。				
目的 (何をどうしたいのか)	新東名高速道路や国道246号バイパス、都市計画道路西富岡石倉線の開通に向けて、関係機関と連携し整備の促進を図ります。				
主な対象 (誰・何を対象に)	交通利便性の向上や災害時のネットワークの構築など広域幹線道路の整備効果を受けることとなる市民及び道路利用者です。				
事業内容 (手段、手法など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新東名高速道路の令和5年度全線開通に向け、円滑な整備促進を図るため、地元調整や地元組織との連絡を密にするとともに、地域連絡会や工事説明会などで情報提供に努めます。</li> <li>・国道246号バイパスの早期整備、全線事業化に向け、秦野市、厚木市、中井町、大井町、松田町、清川村と連携し、引き続き国等へ要望活動を実施します。</li> <li>・都市計画道路西富岡石倉線の令和5年度全線開通に向け、地域連絡会を通じて工事等の情報提供や地元要望の把握に努めます。</li> </ul>				
事業行程	項目	年度			
		令和3年度	令和4年度		
	新東名高速道路の進捗状況	用地買収・埋蔵文化財調査・工事(一部供用開始予定)伊勢原市内	用地買収・埋蔵文化財調査・工事(仮称)秦野IC～(仮称)御殿場IC区間		
	国道246号バイパスの進捗状況	用地買収・埋蔵文化財調査・工事	用地買収・埋蔵文化財調査・工事		
都市計画道路西富岡石倉線の進捗状況	用地買収・埋蔵文化財調査・工事	用地買収・埋蔵文化財調査・工事			
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
			令和3年度	令和4年度	
	広域幹線道路等の整備促進	整備促進(令和2年度)	整備促進	整備促進	



事業実施 (Do)

## 事業実施 (D○)

<b>事業の「取組方針」</b> (前年度事務事業評価)	新東名高速道路の機能補償道路等及び令和5年度全線開通予定の都市計画道路西富岡石倉線の、円滑な整備促進を図るとともに、関連して整備が進められている国道246号バイパス(厚木秦野道路)の早期開通に向け、地域支援や国等への要望活動を実施します。また、(仮称)伊勢原西インターチェンジ以西の用地測量が実施されることから、地元への情報提供に努めるとともに、国との連携を図り、地域支援を行います。		
<b>実施方法</b> 〔選択・記入〕	<input checked="" type="checkbox"/> すべて直接実施 <input type="checkbox"/> 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	<b>委託先又は指定管理者</b>
	<input type="checkbox"/> 補助金		<b>補助先</b>
	<input type="checkbox"/> その他		<b>具体的内容</b>
<b>実施結果</b>	<b>項目</b>	<b>年度</b>	
		<b>令和3年度</b>	<b>令和4年度</b>
	新東名高速道路の進捗状況	用地買収・埋蔵文化財調査・工事(市内全線供用開始)	用地買収・埋蔵文化財調査・工事(新秦野IC～新御殿場IC区間)
	国道246号バイパスの進捗状況	用地買収・埋蔵文化財調査・工事・用地幅杭設置	用地買収・埋蔵文化財調査・工事
	都市計画道路西富岡石倉線の進捗状況	用地買収・工事	用地買収・工事
<b>実施した取組の内容</b>	国道246号バイパスの早期開通及び未事業化区間の全線事業化に向け、近隣市町村と連携し、引き続き国等への要望活動を実施しました。また、地元組織との連絡を密にし、地域連絡会などで情報提供に努めるとともに、関係機関との連携を図り、地域支援を行いました。		
<b>目標の達成状況</b>	<b>【指標名】</b>	<b>年度</b>	
		<b>令和3年度</b>	<b>令和4年度</b>
	広域幹線道路等の整備促進	整備促進	整備促進

	年度		令和3年度 実績		令和4年度 実績	
内訳	<b>事業費合計(a)</b>		1,581	千円	0	千円
	内訳	国県支出金 ①	500	千円	0	千円
		地方債 ②	0	千円	0	千円
		その他特財 ③	0	千円	0	千円
		一般財源 (a)-①-②-③	1,081	千円	0	千円
<b>国県支出金の内容</b>						
コスト	その他特財の内容	受益者負担	○有    ○無		前回の改定時期	
		その他				
人件費	<b>正規職員</b>		2.4	人	19,632	千円
	<b>その他の職員</b>		0	人	0	千円
	<b>人件費合計(b)</b>		2.4	人	19,632	千円
<b>トータルコスト(a)+(b)</b>		21,213	千円	20,568	千円	
単位当たりコスト	対象数	定義	市民		単位	市民
		対象数	101,381	人	101,119	人
	総事業費／対象数	209	円	203	円	

評 価 (Check)			
<b>進捗状況</b> [選択・記入]	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	B	<b>左記判断理由</b> 新東名高速道路の全線開通時期が公表されたほか都市計画道路西富岡石倉線の全線開通に向け、概ね計画どおり事業が進捗しました。また、国道246号バイパスについては近隣市町村と連携し、全線事業化・全線早期開通に向け、国等へ要望活動を行いました。 ※新東名高速道路、新秦野インターチェンジから新御殿場インターチェンジ間の開通時期は令和5年度から令和9年度へ見直し(令和4年)
<b>実施水準</b> [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	A	<b>他都市の事業内容等</b> 新東名高速道路について令和2年3月に伊勢原大山インターチェンジまで、令和4年4月には秦野市の新秦野インターチェンジまでが開通し、市内の本線部は全線開通となりました。また、伊勢原大山インターチェンジへのアクセス道路である都市計画道路西富岡石倉線や国道246号バイパスなど、幹線道路ネットワークが他都市と比較して、より高い水準で整備が進められています。
<b>有効性</b> [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	<b>左記判断理由</b> 新東名高速道路の伊勢原大山インターチェンジが令和2年3月に開通して以降、利用台数が増加傾向で推移していることや、都市計画道路西富岡石倉線の一部区間の開通により、インターチェンジへのアクセス性の向上・広域幹線道路ネットワークが形成されることによる、交通利便性や都市機能の向上が図られています。
<b>効率性</b> [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である(C)	A	<b>左記判断理由</b> 市内では、着実に広域幹線道路の整備が進んでおり、工事に関する地元との具体的な調整を進めております。地域連絡会や地元自治会などの地域支援を行い、円滑な整備促進を図りました。


 取組内容の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)	
<b>所管部長による総評</b>	新東名高速道路が令和4年4月に新秦野ICまで開通し、観光振興による経済効果や物流効率化による生産性の更なる向上が見込まれます。また、新秦野IC以西の開通見込みが示されたこともあり、東名、新東名、圏央道と相互に連携し、地域交通の円滑化を図る国道246号バイパスの整備による広域幹線道路ネットワークの構築が益々重要となることから、早期開通に向けた整備促進を引き続き図っていく必要があります。